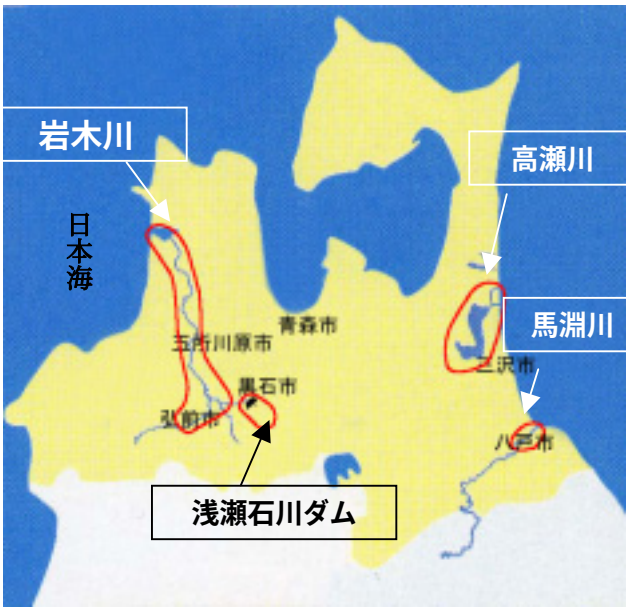
☆．青森県における調査結果概要

○浅瀬石川ダムは底生動物にとって良好な生物生息環境を維持！
○オオクチバス（ブラックバス）は今回の調査では未確認。
（高瀬川）

【青森県内調査結果概要】

下表に2巡目調査と平成16年度調査の種数について示します。

前回調査と今回の調査を比較すると、特に、高瀬川と浅瀬石川ダムにおいて底生動物が前回調査よりも多く確認されました。特に、浅瀬石川ダムにおける底生動物の確認種数は今回調査を実施した全国16ダムの中で最も多いダムでした。一方、特定種では絶滅危惧II類のメダカが高瀬川で確認されました。このように、青森県内の河川とダムは生物にとって、良好な環境を保っており、貴重な生物の生息空間となっていることが伺えます。



青森県河川･ダム概略位置図

表　青森県内の河川とダムにおける調査実施項目と確認された種

河川名 ダム名	調査項目※1)							
	魚介類		底生動物		鳥類		動物･植物プランクトン	
調査年次	2巡目	H16	2巡目	H16	2巡目	H16	H11	H16
岩木川			152	135				
			7	2				
高瀬川	67	71	79	179				
	9	8	2	7				
馬淵川					97	61		
					11	3		
浅瀬石川ダム			155	178			167	191
			2	1			ー	ー

注1）表中の上段の数字は確認された全体の種数を、下段は特定種の種数を示しております。

【各調査項目のポイント】

◆魚介類

高瀬川において、平成16年度に魚介類調査を実施した結果、メダカが確認されました。メダカは、1999年に環境省（庁）が公表したレッドリストの中で、絶滅の恐れがある種（絶滅危惧II類）として掲載され話題を呼び、その減少した原因については、農業用水路や河川がコンクリート張りにされたことなどが考えられております。

メダカ（高瀬川）



写真：
国土交通省　高瀬川河川事務所

◆底生動物

岩木川、高瀬川、浅瀬石川ダムにおいて平成16年度に底生動物調査を実施した結果、特に、浅瀬石川ダムでは178種確認されました。これは、今回調査を実施した全国16ダムの中で最も多い結果でした。一方、特定種では高瀬川で7種確認され、今回調査を実施した全国27河川で最も多く確認された河川で、モノアライガイ等が確認されました。

モノアライガイ（高瀬川）



写真：
国土交通省　高瀬川河川事務所

◆鳥類

平成16年度に、鳥類調査を実施した馬淵川は、61種の鳥類が確認されました。馬淵川は、八戸市の中心を流れる河川の中で、鳥類にとっても貴重な生息空間となっているといえます。

【外来種の傾向】

◆魚介類

高瀬川では、特定外来生物で指定されているオオクチバス（ブラックバス）が平成11年度の調査で確認されていましたが、平成16年度の調査では確認されませんでした。また、その他の特定外来生物で指定されているブルーギルやコクチバスは確認されませんでした。

オオクチバス（ブラックバス）は、1925年に芦ノ湖にアメリカから移植され、その後、遊魚を目的とした放流によって全国各地に分布域を広げた、平成17年6月に特定外来生物として指定された外来魚です。コクチバス（ブラックバス）の影響で、全国各地で在来魚が激減する報告が多数報告されているため、今後も、継続的にモニタリングを実施していく必要があります。

◆底生生物

平成１６年度に底生生物の調査を実施した浅瀬石川ダムでは、河川水辺の国勢調査を実施した当初から確認されているサカマキガイが引き続き確認されました。サカマキガイは、平成１６年度に底生動物調査を実施した全国の１６ダムで、最も多く確認されていた外来種です。外来種は在来種への影響が懸念される為、今後も継続的にモニタリングを実施していく必要があります。

◆鳥類

平成１６年度に鳥類の調査を実施した馬淵川では、ドバド等の外来種が２種確認されました。これらの種は特に特定外来生物として指定されている種ではありませんが、今後も継続的にモニタリングを実施していく必要があります。